



笑 顔

「学力・学習状況調査」結果及び今後の取組について

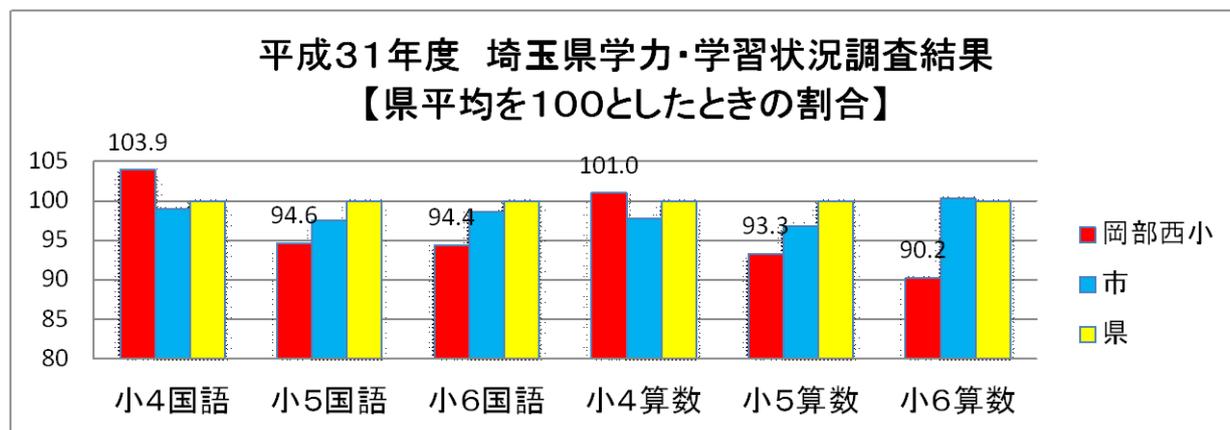
本年度実施された「全国学力・学習状況調査」及び「埼玉県学力・学習状況調査」の調査結果が公表されました。これを受け、本校では児童一人一人の学習状況を把握し、児童への学習指導や実情等の改善に役立てるため、分析を行いました。その結果と今後の取組について報告します。

1 「埼玉県学力・学習状況調査」について

(1)趣旨

埼玉県では、全県的な教育水準の維持向上を図る観点に立ち、独自に平成27年度から、「埼玉県学力・学習状況調査」を実施することになり、今年度は4月11日に実施しました。この調査は、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばすため、学習内容をどの程度身に付けているかを把握するとともに、学習に対する興味・関心などの状況を調べるために県内の小学4・5・6年生、中学1・2・3年生を対象に、「国語」「算数」（「英語」）及びアンケート形式の「児童生徒質問紙調査」で実施しています。

(2)結果



(3)分析:本校のよかった点と課題(○よかった点、●課題)

<国語>

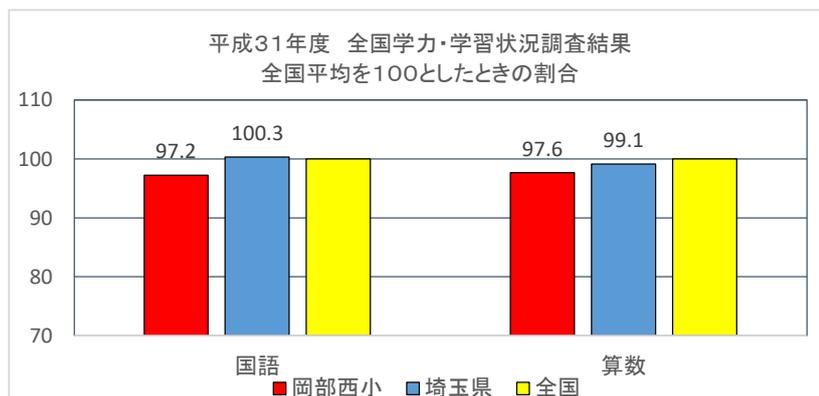
- 4年 ○漢字、話すこと・聞くこと。
●指示語、二段落構成で書くこと。
- 5年 ○主語・述語。漢字の部首。
●修飾語。国語、漢字辞典の使い方。
登場人物の心情の読み取り。
- 6年 ○主語。熟語の構成。謙譲語。
●ことわざ・慣用句。接続語。
登場人物の心情の読み取り。

<算数>

- 4年 ○巻き尺の目盛り。円・球の理解。
●文章題。時間(秒)の単位換算。
- 5年 ○計算力。大きな数の理解。
●面積の求め方。四捨五入。
図形(正方形、ひし形、直方体等)
- 6年 ○直方体の体積の求め方。
●展開図。四角形の外角の求め方。
百分率の理解。帯グラフの読み取り。

2 「全国学力・学習状況調査」について(全国小学6年生対象)

(1)結果



今年度から知識に関する問題・活用に関する問題と分けずに、教科ごとの問題となりました。

(2)分析:正答率が高かった問題と低かった問題(○高かった問題、●低かった問題)

【国語】

- | 問題内容 | 本校平均値 (全国比較) |
|---|---------------|
| ○文章の中の漢字を正しく書く。(訓読み「友達に <u>カ</u> ぎらず」) | 86.7% (+17.3) |
| ○接続語を使って内容を分けて書く。 | 55.6% (+7.8) |
| ●文章の中の漢字を正しく書く。(同音異義語「調査の <u>タイ</u> ショウ」) | 26.7% (-15.2) |
| ●文章の内容を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。 | 68.9% (-11.8) |
| ●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認するための質問をする。 | 71.1% (-10.2) |

【算数】

- | | |
|--------------------------------|---------------|
| ○示された除法の式の意味を理解する。 | 66.7% (+19.7) |
| ○加法と乗法の混合した計算ができる。(6+0.5×2の計算) | 73.3% (+13.2) |
| ●面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する。 | 24.4% (-19.5) |
| ●複数の資料を関連付けて、判断し、その理由を記述する。 | 37.8% (-14.3) |
| ●単位量あたりの大きさを基に、求め方と答えを記述する。 | 53.3% (-9.3) |

3 今後の取組

(1)指導方法の工夫改善

- ①自分の考えや根拠を明確にして表現する活動を効果的に取り入れた授業の実践
・説明する力や思考力等を高めるために、自分の考えを根拠を明確にして、順序立てながら説明する授業展開を全教科で行う。
- ②両学力調査の結果と課題を踏まえた学習指導やスキルアップタイムの一層の充実
・日常生活の中で力を付けていくために、授業中、意図的に文章に即した漢字を書かせたり、ことわざ学習を取り入れたりする。
・課題解決の方法を考えさせる授業展開を工夫し、対話的な意見交流を行いながら、自分の考えを深め表現できるようにする。
- ③見通しと振り返りを大切にした授業展開
・主体的に学習に取り組む児童を育成するために、授業導入時には、学習課題を明確に示し、学習全体の見通しをもたせる。1時間の授業または1単元を通して、何を学んだか、どう学んだか、児童自身の学習の変容を振り返る時間を全教科で設ける。

(2)家庭・地域との連携

- ①家庭学習時間のめやすの周知と宿題や連絡帳の見届け
「学年×10分+10分 (1年生ならば20分、6年生ならば70分)」
- ②読書時間の確実な実施
・親子で会話したり読書したりする時間を大切にしてください。ゲームやスマホ、タブレットなどから離れる時間を作りましょう。
・2学期の読書キャンペーンでは、「親子読書」にご協力いただきます。
- ③地域の方々に協力いただく教育活動や授業実践の一層の開発